

■今月の特選句

2015年4月

検尿も花見の酒も紙コップ

新島里子

紙コップの使い回しを想像すると、可笑しさ倍増。良質なパルプの紙コップの使い捨ては心傷む。「検尿のコップを使い花見酒」。

三日分濃縮されし二月尽

笠 政人

瞬間、脳裏を掠めたことが滑稽句になる見本。月極め駐車場の経営者はちょっと儲けて、受験生は焦り、俳人は月末投句締切を怨む。

許可せぬに勝手に逃げるニンは

日根野聖子

一月の勝手に行くを見咎めて、ニンの逃げる姿を悔しがり、三月の去るもの追はず諦める、てなことか。

土手土筆鉄条網の囲ひ者

松井まさし

「囲ひ者」に懐かしい響き。お妾さんが二号と呼ばれるようになって品がなくなつた。土筆でもいい。お妾さんに会いたいと思いませんか。

庭下駄に左右のしるし山笑ふ

田村米生

下駄は左右同じ形なのにねえ。なぬ？右足が水虫だと。そりゃあ、しるしは大切なことよ。知っているけど左にも水虫をだと？それが悪平等。

落ちこぼれさうでこぼれず卒業す

横山喜三郎

優等生だとその地位を保つために猛勉強で、もう大変。俺なんぞやっと合格してぎりぎり卒業。だけどそういう「スリル」がいいんだよ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- 割箸の權となりたる花筏** 氏家頼一
・・・愉しそうなる一寸法師
- 喉からの手が掴みとる椿餅** 永島董玉
・・・目が欲しがるとそういうことに
- 恋猫に攻める婚活学びけり** 岡野 満
・・・人目にせず駄目もとで行け
- 抽選の五等はティッシュ山笑ふ** 八洲忙閑
・・・六等ならば山怒るのか
- 集団で自衛を目指す蝌蚪の群れ** 藤森荘吉
・・・黒装束は右翼にも似て
- 不器用は強さのひとつ残り鴨** 百千草
・・・残留希望なのかも知れぬぞ
- 糞取りの鶯籠に太りけり** 伊藤浩睦
・・・鶯さんはフンガイしてる
- 春の宵残りし靴が客の靴** 山本けい子
・・・誰の靴でも履ければいいさ
- パソコンとスマホを学び卒業す** 菅野あたる
・・・卒業出来りやそれで十分
- 鶯の鳴き声満つる和菓子店** 飯塚ひろし
・・・菓子が鳴くとは可笑屋さんよ

つくしんぼ寝ころび見れば電信棒
・・・ぜんまいならばハテナマークに

有富洋二

耳の日や聴く耳もたぬ人とゐて
・・・熱く語ってお馬鹿なワタシ

有吉堅二

勝ち負けの世に背を向けて炬燵かな
・・・不戦敗てふことになるらむ

酒井鹿洋

■今月の滑稽句

【佳作】	亀鳴くや本音というは生き難し 値を変えず目減りの中身四月馬鹿 働けどワーキングブア啄木忌	青木輝子 青木輝子 青木輝子
【佳作】	修二会なり僧は上堂童子駆く こうなごや浜の酒屋で少し食ぶ 水温む杓(とほ)き女(ひと)にも届けかし	青山桂一 青山桂一 青山桂一
【佳作】	防災管理は庭師を兼ねて耕しぬ 淡雪は浪花の土に積もらねど 黄砂・花粉に霞を加へ三Kに	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
【佳作】	人の世に句会のあらば亀が鳴く 永き日やアウトの取れぬ草野球	有富洋二 有富洋二
【佳作】	大仏の鼻むずむずと花粉症 受験絵馬天神様の肩の凝り	有吉堅二 有吉堅二
【佳作】	ためこんだ露の重たさ椿落つ 蜂に蜜花は実りの時を待つ 花咲いたさあどうしよう花咲いた	栗倉健二 栗倉健二 栗倉健二
【佳作】	春の夜や湯水溢らす独り者 春の空押し上げてゐる麒麟かな	飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】	片耳に切れ字の落ちの初音かな 洗車の後につちふる無情かな 浮かぶ顔浮かばぬ名前春うれひ	井口夏子 井口夏子 井口夏子
【佳作】	よじくれ梅ひねくれ茶碗を笑いけり 春一番あこがれスターの離婚沙汰	池田亮二 池田亮二
【佳作】	崖の上の梅を見るのも自己責任 自画自賛ばかりの国の桜散る	伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	新緑や紅葉マークの車行く マスクしてみんなインフルエンザかと 踏青や忘れし道を思ひ出す	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	春の雨貸した傘まだ戻らずに 律儀にも三寒四温違わずに	井野ひろみ 井野ひろみ

【佳作】	願掛けの絵馬にシールの大試験 鬼は外落ち着きはらう鬼瓦 大人びる孫沢庵をポーリポリ	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	朝東風やペダルをこぐに目を細め 春待つはホットケーキを焼くやうに 蚊の電子音古池の蛙減り	上山美穂 上山美穂 上山美穂
【佳作】	太鼓腹撫でれば臍へ春の雷 ハナハトの頃が懐かし卒寿生	氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	洗心の手水に映る枯木かな 春マラソン高橋尚子のハイタッチ ボスの地位失ひし猿冴え返る	梅岡菊子 梅岡菊子 梅岡菊子
【佳作】	余生とは籬をはづして大朝寝 涅槃図の煤けてゐるは有難し 休肝日あしたに伸ばし夜の桜	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	いざさらば涙は花粉症のせい 春風やおヤヂこつそりスキツプす	大澤酒仙奴 大澤酒仙奴
【佳作】	笠の中スマホしている遍路旅 ライバルが利口に見える入社式	岡野 満 岡野 満
【佳作】	春節の悟空何やら遠慮がち 三月や税務署通り賑はひて 厳めしく「縣廳」とあり風光る	奥脇弘久 奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	派手すぎた衝動買の春帽子 使徒として蛇穴を出づこの濁世	笠 政人 笠 政人
【佳作】	物言ひたげや舞ひ寄る風花は 道連れに流れに浮きし芹一株 栄転の若者紅白梅に立つ	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	先生に手を握られて卒業す 五つ星いただくホテル蜆汁 女房が髭剃りみたり春夕べ	加藤 賢 加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	巻き寿司と散歩コースも恵方向き	門屋 定
【佳作】	歳男豆撒きながら餅も投げ 春分の日祝日非ず七回忌	門屋 定 門屋 定

	置炬燵なにやら透かす不埒者	金澤 健
【佳作】	しばれると声出せぬほどしばれけり 雪女郎嬉々と酌する爛冷まし	金澤 健 金澤 健
【佳作】	少しづつ日脚伸びれど背のちぢむ 余寒かなたつた二人の映画館 佐保姫のタクトふる手の匙加減	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	弁当の沢庵匂ふ大試験 鶯や寺の嫌がるノッポビル	菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	下半身どこかに忘れ雪女 啓蟄や臍の辺りが痒くなる 春まつり僧侶こっそり願かける	久我正明 久我正明 久我正明
【佳作】	鈍感な人まで罹る花粉症 黄砂降る平山郁夫記念館 高塚の舞台狭しと鳥の恋	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	ただ一輪向うを向きて梅の花 冬の日の男手欲しきビンの蓋 電柱に天下を愁ふ寒鳥	小泉花子 小泉花子 小泉花子
【佳作】	恋猫に名刺がはりのかつお節 バレンタインちかごろ失せし義理人情 寄居虫や兄のお古のランドセル	小林英昭 小林英昭 小林英昭
【佳作】	ルビ多き出席簿読む入学式 年の市スマホも歩けば人に当たる	酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	まか不思議日毎に減るよひなの菓子 猫出番にらみじゃれ合い飛びつくよ 大木が腹巻取られくしゃみかな	佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	節分会カメラ狐の嫁御追ふ 振袖に尻尾ぶらさげ節分祭 三三九度夫婦狐も豆も撒く	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	啓蟄の泥をかぶってしまひけり 遅き日のすぐに気の立つ人とみて 春めきて日々それらしきゆるキャラに	下嶋四万歩 下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】	独り煎る乳首程かな鬼の豆 三日振り戻り寡黙や恋の猫 ドイツ村に赤城風が吹き抜ける	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	少子化に余裕綽々受験生 手を翳し開く扉や冴返る 恋の猫大黒柱に爪を研ぐ	白井道義 白井道義 白井道義

【佳作】	ちらほら桜私宛の郵便物がない 風呂のボタンが喋る春よ来い 土手に転げたものだ松ぼっくり	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	ジュース飲みお菓子をつまみセーター着 恵方巻袋を提げてコンビニへ 霜晴れや大きな犬が歩いてく	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	百千鳥借金とりは声高く 三下りただ寝そべて春の猫 旧姓の名札を付けて猫の妻	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	乗り継ぎはうまくできたと受験の子 順繰りに見送る中を遠足児	高田義之 高田義之
【佳作】	御仏はイケメンに御座す御開帳 御開帳意味取り違え来た男 春の沼行くも残るも鳥次第	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	黒雲のほころび冬の月のぞく 一本だけ寒桜の孤独かな 冬将軍とどめ爆弾低気圧	高橋マキコ 高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】	聞いてしまった三人官女の立ち話 猫糞をきめ込み眠る恋の猫 夕焼や迎へに友はちりぢりに	高橋素子 高橋素子 高橋素子
【佳作】	春めくの老人何を切れるのか まれびとへの道を歩む春の山 我のせつなる願ひする春社かな	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	五体錆び頭も錆びて零余子飯 ぼっくり寺詣でたりしが春を病む 孫なべて草食系や鳥の恋	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	出無精の湯殿でふぐり落しかな 春愁忘れしことをもう忘る	田村米生 田村米生
【佳作】	花蓆留守番役が本を読み 花蓆境界線に靴を置き また来年花に約束して帰る	津田このみ 津田このみ 津田このみ

【佳作】	弁当の田麩とごはん庭の梅 カラオケの点数かなし冴へ返る 卒業生扉の外で舌を出し	土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山
【佳作】	煩惱の数超すスコア春愁ふ 正解が八百もある四月馬鹿 風吹けば絵馬の軋めく二月尽	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	客船を逆さに浮かす蜃気楼 花木瓜のやうな真赤な嘘ばれて	永島董玉 永島董玉
【佳作】	君もはふ我もはふはふ牡蠣フライ 毛糸玉より編棒の角二本	新島里子 新島里子
【佳作】	竜天に登りそこねて天井画 議事堂の中は蛙の目借時 逢坂関や佐保姫袖絞る	西をさむ 西をさむ 西をさむ
【佳作】	椿さん過ぎ堂々と春を呼び 春風も一番二番と競いをり 春雨の見事一日おきに降り	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	亀鳴くや日向に三毛が裏返り 日脚伸ぶ賞味期限のパン一個 下萌や吾の生れたるは前世紀	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	生身魂芳一と言ふ地獄耳 ずぼらとは便利なものよ更衣 塗椀に捧げ供へる蜷汁	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	春の泥杖高跳びに着地せり 昔はにやあ竈で暖をとつたにやあ 樹木医てふ花咲爺今もゐて	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	なんとなく眠さう飾りたての雛 ちよろちよろは一年生と春の水	日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	冬夜空わが脳内に黒虚空 さる山のあちらとこちらほぼ同じ 子を持ってやさしき威厳のゴリラかな	平戸良治 平戸良治 平戸良治
【佳作】	鷲鼻の主張ばかりの落第子 誕生日一升餅を背負わせり 地虫出で言の葉吃り冴返る	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	生きてあることの特権春眠し 猫の恋まじめな顔でまつしぐら	藤森荘吉 藤森荘吉

	水仙や吾が留守宅を守りたる 冬風の湖面の富士の逆さかな	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
【佳作】	寒さうに炎躍らせ和蠟燭	
	雅とは雪舞う舞台鹿苑寺 嵐山凍みる寒さに人は逃げ	細川岩男 細川岩男 細川岩男
【佳作】	寒雷に神も仏も沈黙す	
	梅が香や枝に止まるはめじろとも 木の床に日向ぼこりの猫二匹 しら梅のまばらとなりし老樹かな	松井寿子 松井寿子 松井寿子
【佳作】	梅が香や枝に止まるはめじろとも 木の床に日向ぼこりの猫二匹 しら梅のまばらとなりし老樹かな	
	春炬燵出るがいやさに尿瓶据え わが口臭吸ひたる水仙のけぞりぬ	松井まさし 松井まさし
【佳作】	春炬燵出るがいやさに尿瓶据え わが口臭吸ひたる水仙のけぞりぬ	
	しんがりの衛士ねぎらひ雛納む 春光や意味もなくして笑みこぼる 枝打ちて重き心に春いれぬ	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
【佳作】	しんがりの衛士ねぎらひ雛納む 春光や意味もなくして笑みこぼる 枝打ちて重き心に春いれぬ	
	千金の夢の覚めたる春の闇 春の風顔いっぱい吹く日かな	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	千金の夢の覚めたる春の闇 春の風顔いっぱい吹く日かな	
	背伸びして投函の子や春の風	
【佳作】	春眠の罨とも知らず抜け出せず 花しどみ愚痴は昨日に捨てました	百千草 百千草
	俳人に足を踏み入れ菜種梅雨 遠足にキャラクターのにぎり飯 警察に見守られてるつくしんぼ	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
【佳作】	俳人に足を踏み入れ菜種梅雨 遠足にキャラクターのにぎり飯 警察に見守られてるつくしんぼ	
	おさがりのどれもぶかぶか入学児 雛壇の下が怪しいかくれんぼ 先生の匂ひに恋し一年生	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	おさがりのどれもぶかぶか入学児 雛壇の下が怪しいかくれんぼ 先生の匂ひに恋し一年生	
	年賀状当たつたろうと嫌な奴 老いらくと思へぬ声の浮かれ猫	谷澤紀男 谷澤紀男
【佳作】	年賀状当たつたろうと嫌な奴 老いらくと思へぬ声の浮かれ猫	
	春一番花粉ばらまき詫びもせず 白浪や白子の浜の白子干し	八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	春一番花粉ばらまき詫びもせず 白浪や白子の浜の白子干し	
	恋猫や安堵の昼寝三時間 八十路来て黴又一本春の月 春の川小さき命の逞しき	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】	恋猫や安堵の昼寝三時間 八十路来て黴又一本春の月 春の川小さき命の逞しき	
	干菓子やま焼ひて味わふ昭和かな 球根の芽を覚ましたり土笑ふ 石鎚や城寄り添うて梅一輪	山下正純 山下正純 山下正純
【佳作】	干菓子やま焼ひて味わふ昭和かな 球根の芽を覚ましたり土笑ふ 石鎚や城寄り添うて梅一輪	
	見掛け良いらんごに裏切られけり 冴え返るメモをしたのに買ひそびれ	山本けい子 山本けい子
【佳作】	見掛け良いらんごに裏切られけり 冴え返るメモをしたのに買ひそびれ	

	霰きてますます大き鳥居かな	山本 賜
【佳作】	蜆汁神話に日の神月の神	山本 賜
	入学のどの子どもの子も日本一	山本 賜
【佳作】	こっそりとチョコ買ふ男バレンタインデー	横山喜三郎
	花を見る間もあらばこそ酒宴かな	横山喜三郎
【佳作】	亀鳴くや本音というは生き難し	青木輝子
	値を変えず目減りの中身四月馬鹿	青木輝子
	働けどワーキングプア啄木忌	青木輝子
	修二会なり僧は上堂童子駆く	青山桂一
	こうなごや浜の酒屋で少し食ふ	青山桂一